

第680回建設技術講習会 現場研修事業の概要

1 宮崎西インターチェンジ周辺防災支援拠点整備事業 [宮崎市] 宮崎市有田

- 平成25年2月に宮崎県が公表した「南海トラフ巨大地震等の津波浸水想定」で、本市の沿岸部、約4,010haの区域が浸水することが示され、この想定区域内には「地域災害拠点病院」に指定されている宮崎市郡医師会病院等が立地しており、医療活動等への深刻な影響が懸念されていた。
- 大規模自然災害に備え浸水被害がなく、かつ東九州自動車道宮崎西ICに近接し、陸上輸送の要所にある当地において、医療及び災害時の救援・救護活動の拠点づくりとして「宮崎西IC周辺防災支援拠点整備事業」に着手。
- 市内に分散立地していた市郡歯科医師会、市郡薬剤師会、その他医療関連施設を集約させることにより、大規模自然災害の被災後における救護体制が整い、また隣接した県指定後方支援拠点である「生目の杜運動公園」と連携して、速やかな復旧・復興の支援を可能とする防災緑地3箇所、約2haの整備を実施。
- 大規模自然災害に備えるために必要な医療施設や関連施設等の土地利用の誘導を図るとともに、建築物等の形態又は意匠の制限等により、周辺環境と調和した景観形成にも努めた。



2 東九州自動車道 芳ノ元トンネル工事 [九州地整] 宮崎市清武町

- 国道220号には事前通行規制区間が存在し、過去15年間で67回の全面通行止があり、迂回路は遠回りする(主)日南高岡線のみで、宮崎市～日南市間の通勤・通学、救急医療活動など住民生活に支障をきたしている。
- 東九州自動車道の整備により、災害時の通行止めの回避や輸送ルート確保が図られ、平常時・災害時を問わない安定的な輸送を確保するための道路ネットワークを構築。
- 2019年6月に九平トンネル、同11月に寺山一号橋の上部工製作が完了。同区間の大規模構造物すべての工事工程の目処がたった。
- なお、芳ノ元トンネル掘削中に地すべりが起こり、地表面のひび割れやトンネルの変状等が発生したため、「東九州自動車道(清武～北郷)トンネル施工検討会(以下検討会)」(有識者で構成)を設置し、地すべり対策等を検討。地すべりの安全性を確実に向上させるため、引き続き、地すべり対策を進め、検討会で頭部排土工・地下水排除工等の効果・検証を実施。
- 東九州自動車道の整備により、日南市内の観光施設や油津港からの90分圏域も約15%拡大し、観光振興による地域活性化に期待。



3 ひなた宮崎県総合運動公園 津波避難施設整備事業 [宮崎県] 宮崎市熊野

- ひなた宮崎県総合運動公園は、「スポーツランドみやぎ」の拠点となる重要な施設であり、毎年多くのプロ野球やJリーグチームがキャンプを行っている。しかし、海岸沿いに立地していることから、南海トラフ地震などによる津波の影響が懸念されており、既存施設のみでは避難スペースが不足することから、令和元年度より、新たな津波避難施設の整備を進めている。
- 同公園では、南海トラフ地震による津波が最短約25分で到達、約6mの浸水が想定されている。
- 令和9年度の国民スポーツ大会会場としても利用される予定であるため、公園利用者の更なる安全確保に努める。

